

# 不確定要素が増える中、新しい配送車両を確保しました!!!

当社は2022年度、配送車両3台の更新を予定しています。

一方、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による工場稼働減、3/16(水)発生の福島県沖地震、並びに他業種との取り合いによる半導体不足等々の影響により、自動車メーカーが軒並み生産体制の見直し、納期の後ずらしを迫られています。更には、追い打ちをかけるようにロシアのウクライナ侵攻の影響で、半導体製造用ガスの需給逼迫懸念が浮上しました。斯かる状況下、当社は、配送車両購入元であるディーラーとの交渉を経て、昨年度取り決めた価格や台数などの条件を一切変更することなく、同3台の手配を無事完了することができました。

今後とも、定期的な配送車両更新を通じて、安定的な配送体制の維持・確保に努め、お客様から選ばれるLPガス配送会社を目指して参ります。

**2022年3月31日(木)付 日本経済新聞電子版より抜粋**

**重要物資7品目の供給確保支援 経産省、半導体ガスなど**

[ウクライナ侵攻](#)

[フォローする](#)

**日本経済新聞**

2022年3月31日 10:46

経済産業省は31日、ロシアのウクライナ侵攻の影響で調達難が懸念される重要物資7品目の安定供給策をまとめた。半導体の製造に使うガスは2025年にかけて国産化を進める。製造設備への投資、リサイクル装置の導入などを支援する。米国などの同盟国や有志国と協力してサプライチェーン（供給網）を安定させる枠組みも構築する。

(中略)

ネオンやクリプトンといった半導体製造用ガスは製鉄所に酸素や窒素を供給する装置から生産できる。半導体業界の枠をこえた協力を促し、国産化を進める。ガスを使う半導体工場でのリサイクル装置の導入も後押しする。今後、設備投資の支援などの具体的措置を打ち出し、25年までの完了をめざす。

これらのガスのロシア・ウクライナからの輸入比率は6%程度だった。国内企業は在庫も抱えている。ただ半導体の需給は逼迫しており、途絶すれば中長期の影響が大きいとみている。

(後略)

**安定的な配送体制の維持・確保に努め、お客様から選ばれるLPガス配送会社を目指します。**